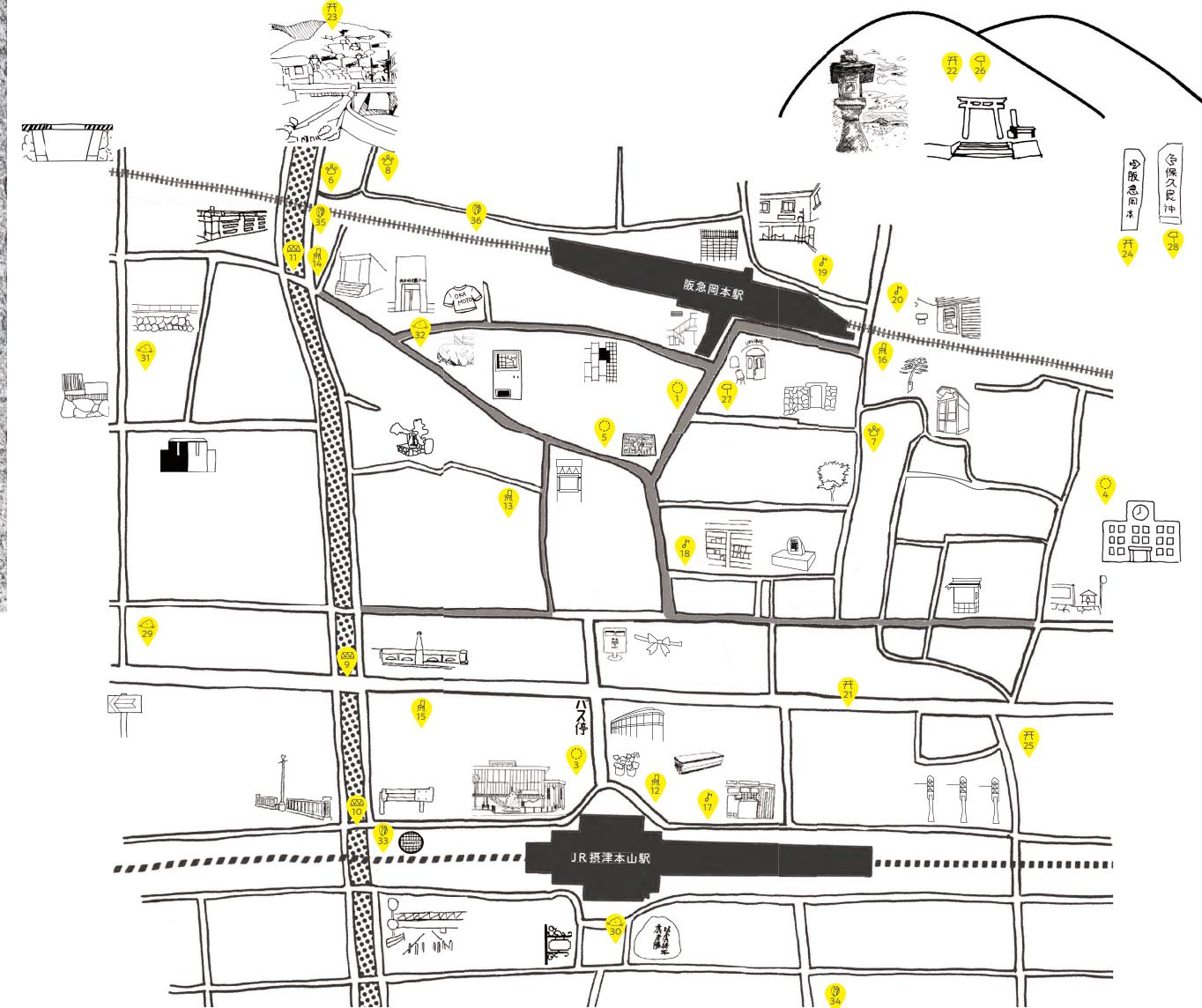


岡本 が 百 八 の見えるMAP

表紙の写真をもう一度見ていただきたい。桜御影の石畳は、まちの目抜き通りから奥まった路地に一的な趣きを与えていた。石畳は、間違いくなく岡本の「顔」だと思うが、そもそもまちの「顔」って何？「人の顔」だけが「顔」なのか。いや、日々、見過ごされ、見逃され、注意深く観察しないと見つけられない景色や居場所、聞こえて来る音も「顔」である。「岡本顔の見えるMAP」は、東京の大学に通う学生が、岡本をぶらぶらと歩いた時に、思わず立ち寄ってしまうまち固有の「顔」を集めている。まちの人が忘れかけている何気ない景色も、よそ者から見ると刺激的である。それらを並べてみると、そこに暮らす人々が醸成してきたまちの「素顔」が見えてくる。



2024年3月 発行：帝京平成大学人文社会学部観光経営学科 編集：同学科
1年(今井・青木・安達・池田・加藤・近藤・小林(眞)・小林(実)・杉井・寺尾・森田・横引) マップ：鈴木知里 デザイン：小山直基 監修：狩野朋子・小室謙
協力：岡本商店街振興組合、岡本在住の皆様 資料提供：美しい街岡本協議会



○見えない顔

まちには、今「見える」景色と、もう「見えない」景色がある。「どちらも」そのまちなので、見比べてみると、まちの奥行きの深さが増して、まちとの距離が縮まるよう感じられる。

今「見える」景色の中には、時間を超えてきた古い景色が残っていることもある。未来に向けて、何を残し、発見し、磨いていくのか。見えない顔が問いかけている。



ねこの散歩道

小さく、かわいい岡本のまちに溶け込むように繋がる道。暮らしに寄り添いながらも、緑化計画によりちりばめられた木々がどこかぬくもりを感じさせる。の中でもまるでねこが行き来しているような細長く奥行きのある道は、アスレチックで遊ぶ前のような遊び心を呼び起こさせる。人にも緑にも調和した散歩道の景色は、岡本がこだわるまちづくりが生んだ賜物である。



かけ橋

岡本はなだらかな傾斜地に位置している。そこに川が流れ、自然地形を残して橋が架けられている。天上川にも幾つか橋が架かっている。橋から見える景色は、北に行くと六甲山が、南に歩いていくと瀬戸内海が近づいてくる。“岡本のかけ橋”は、往来を便利にするだけではなく、人々を繋げ地域コミュニティを広げるために大切な役割を果たしている。



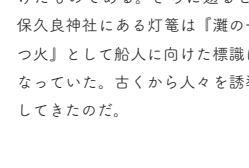
神社

保久良山から岡本のまちを神が見守っている。参拝したときに時折感じる“風”を背に受けると、日々の生活への活力が湧いてくる。だんじり祭りでも神に近づくことができる。戦争や地震の時を除き、毎年開催してきた祭りは、神とまちの人々を結んでいるのだ。神社は、災害時には人々が安心できる“場”も提供している。日常時も非日常時も、人々のそばにあるのだ。それは保久良神社だけではない。岡本のまちや商店街を囲むように神社はある。そういう神々に護られ、私たちは生きている。



示されたその先には

日本には平面的に方向を示す標識や看板が多いけれど、岡本には地面に設置された立体的でいくつかの方向を指し示す石の標識がある。それらはまちの至る所に存在し、中には一部分の文字がかかれている。その標識は、人やモノの往来をサポートするインフラの一つだったと言う。当時から利用するのは旅などで訪れる他所の人々なので、未知の道を通る人々に向けたものである。さらに遡ると、保久良神社にある灯籠は『灘の一つ火』として船人に向けた標識になっていた。古くから人々を誘導してきたのだ。



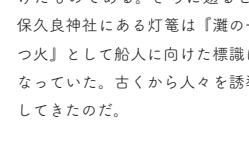
椅子

歴史のあるまちなみ並みと見上げてみれば一面に美しく広がる空は、人々の生活に彩りを宿してくれる。椅子は、座る場所だけではなく、癒しや安心、会話が生まれる場所だと思う。まちを歩いていくと、所々に一息つける椅子を発見することができる。一見椅子には見えないけれど、座ることができるゆったりスポットもある。座って見える景色は、立って見るそれとは違う、新しい景色が広がっている。そこに座って、毎日、毎分変わる景色を体験してみませんか？



あなたは何歳？

昔から岡本のまちを見守ってきたあなた。古いあなたは、現在の岡本の景色とは違う雰囲気をかもし出している。まちを全体的に見れば現代的で洗練されているが、そんなまちにポツンと残るあなた。ごろごろと大きな石、まるで城が築かれていたような大きな石垣。見えないまちの景色が膨らんでいく。そんなあなたが、岡本の歴史を語りかけてくる。



角角四カ直

一見普通に見えるけど、なんだか「カクカクした四角い」景色。『真っ直ぐな線』が並んだ上には音符も並んでいる。石畳の上に乗った私たちの足だって音符。お店の窓には便箋、自動販売機には飲み物。看板の跡にはあったはずの看板の文字。ビザ窓にはこのお店と共に歴史を刻んだ証拠。これはド、それはレ！あれは3連符？この「カクカク」した楽譜のタイトルは、角角四カ直（かくかくしかじか）と名付けましょう。さあ、わたしたちの楽譜はどんな景色？



!?

不可思議な顔、どこか落ち着いた顔、ミステリアスな顔など、さまざまな顔がある。まずは不可思議な顔として、魅力的な住居がある。まるでハウルの動く城に出てくる個性的な家を彷彿させる。なぜ積み重ねて建てられたのか。次にミステリアスな顔として、さびれたガードレールだが、よく見ると、道の端っこに1箇所のみボツンとある。歩道側に人が歩ける幅もない。このガードレールはいったい何を守っているのか。この不可思議な感じや神秘的または芸術的な部分がまさに岡本の魅力としてまちに散りばめられている。それらを発見してみては！？

